

# 豊橋ステーションビル株式会社

# テナント管理における定型業務に時間を費やしており、業務の見直しが必要と感じている 業務の自動化による生産性の向上だけでなく、テナントの満足度向上につなげたい

## 豊橋ステーションビル株式会社 実証結果【1/4】

### 企業概要

- 企業名  
豊橋ステーションビル株式会社（愛知県豊橋市）
- 社長  
浅野 卓
- 概要
  - JR東海のグループ会社
  - 駅舎と商業施設が一体となった日本初の民衆駅
  - 豊橋駅ビル「カルミア」の運営を行っている

### デジタル化推進の背景

- 事業の根幹である家賃収入計算やテナントへの預り金返還のチェック作業がシステムやExcelを介してアナログ管理になっており、自動化を図りたい

TOYOHASHI STATION

Kalmia

### 導入ツール



- PC等のシステム環境において、人の行動を真似て各種アプリケーションを操作するソフトウェア（ロボット）
- 繰り返しの定型業務や大量のデータ処理を自動化することができる

※「UiPath」はUiPath株式会社の登録商標です

# 定型業務を削減するため、業務の棚卸を実施するとともに十分な議論を通じてRPAを用いない業務改善、RPAを用いた自動化、両方を実現できた

## 豊橋ステーションビル株式会社 実証結果【2/4】

—— モデル実証を通じて解決を目指した課題 ——

**定型業務の削減**

- 事業の根幹である家賃収入計算やテナントへの預り金返還のチェック作業がシステムやExcelを介してアナログ管理になっており、時間をとられがちである



—— 課題解決に向けた取組内容 ——

**定型作業の棚卸および見直し**

- 定型業務の棚卸を行い、実際に処理時間を測るなどして定量的に処理フローを分析した
- 業務プロセスの見直しの中で、不要な作業が明らかになり、作業時間の短縮につながった

**返還明細書振替発送処理の自動化**

- いくつかのRPA化候補業務の中から、実現可能性および業務での使用ツールの多さ(RPAの効果が発揮しやすい)から業務を選択し、RPAシナリオを作成した

# トライアンドエラーを繰り返しながらRPAシナリオを作成、また、より一層の効率化のために例外についてもある程度対応できるようにしたことで、具体的な成果をあげられた

## 豊橋ステーションビル株式会社 実証結果【3/4】

### 実証時に感じた壁および克服のためのアクション

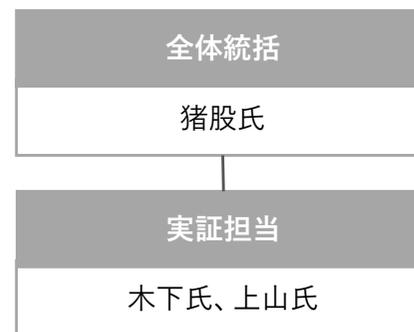
#### 使ったことのないツールを理解し、学習が進められるのか

- とにかく手探りながらも、やりたいことの「ワード」からネットなどでひたすら調べて試行し、それでも動作がうまくいかなかった部分は「わからない」と割り切ってVBA等別ツールも選択肢に入れることで、安定して必要な動きができるようシナリオを作成できた

#### 例外処理のため、作業の効率化があまりできないのではないか

- 従来の作業内容を深く考え整理し、作業内容を細分化してシナリオに反映させることで、例外部分もある程度対応できるRPAシナリオを作成できた

### 実証体制



- UiPathのシナリオ作成等実務については、木下氏が中心的な役割を果たし実証を成功につなげた

### 取組の成果

- 月2回・1回あたり3時間かかっていた業務を15分程度まで短縮できたため、66時間/年程度の工数削減効果があった
- 当初RPAによる自動化を目指していた業務について外部との議論を通じてそもそもの問題（原データが同じものを照合確認することに対する意味）に気づき、作業自体の必要性を再考する機会になるなど、日々行っている業務の意味や必要性を考え、改善していくことの価値・重要性を認識できた

# 今回の取り組みを一つのきっかけにしてRPAによる自動化を社内で自立的に進め、効率化できた時間を活用して業務変革につなげていきたい

## 豊橋ステーションビル株式会社 実証結果【4/4】

### 今後の課題・目標

### (デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

#### 課題

- (取り組みの成果でも記載したが) ただ単に効率化するのではなく、その作業の必要性、何のためにやっているのか等をまず精査してからデジタル化していくことが必要

#### 目標

- 今後も、他部署の業務も含めて様々な定型作業の効率化・自動化のためにRPAの導入を促進していきたい

- RPAの導入は、導入そのものの自動化効果に加え、作業の必要性や作業プロセスを考えるきっかけにもなるため、どんどん導入していくのがいいかと思う
- ツールを駆使して作業時間を短縮することは、それ自体を主目的とせず、余った時間を活用し新しいことに挑戦するなど、業務の変革を進めるための手段だと考えている